

# ふるさと宮城の一日も早い震災復興に向けて 私たち仙台銀行は 全力で地元企業を応援します

地元企業応援部を創設、きらやか銀行とも連携し復興を後押し



President  
Message  
頭取メッセージ  
仙台銀行 取締役頭取  
三井 精一

平成23年7月地元企業応援部発足式(本店)

東日本大震災からの早期復興に向けて、私たち仙台銀行は、被災地の地域金融機関として強い使命感と決意をもって立ち上がりました。

平成23年6月、地元企業の復興をトータルにサポートする「地元企業応援部」を創設。復興支援の企画立案、被災企業の再生支援、復興融資の各分野を担う行内エキスパート42名(平成23年12月末現在)をここに集結させました。

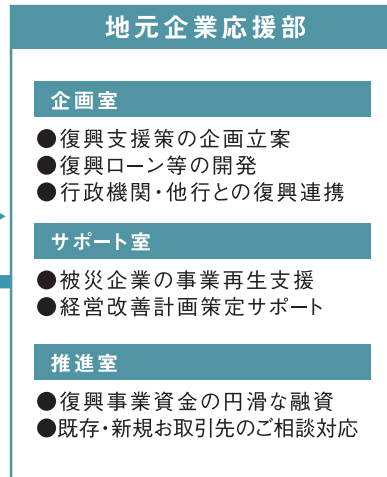
私たちの合言葉は、「現場主義の徹底とスピード力」。地元企業応援部は、宮城県内支店の営業担当者と一緒に、お取引先を訪問。被災地の現場で、お取引先の復興に向けた様々な悩みや考えを聞き、共に考え、そして迅速に事業再生プランを提案・実行しています。

また、経営統合を進めるきらやか銀行(本店:山形市)との連携も更に強化。県境を超えて2つの力を結集し、復興を強力に後押しします。

ふるさと宮城の復興へ向けて、私たち仙台銀行は、宮城の皆さまと共に歩んでまいりたいことを、ここにお約束いたします。

## ● 地元企業応援部の体制

宮城県の被災された企業さま  
(震災で被災された企業さま)



## 仙台銀行の応援が 取引先の元気を取り戻す これが私の支えです

地元企業応援部推進室  
小林 恵美



被災したお取引先が抱える問題は本当に様々です。私は毎日お取引先に訪問し、社長さんから復興の考えや要望をしっかりと聞き、最適なローン商品等を提案しています。

今回の津波で新築したばかりの食品工場が全壊してしまったお取引先があります。社長さんは事業再建に強い意欲をお持ちであることから、担当支店とも相談し、当行の借入金を劣後ローンに変更して返済順位を後回しにすることで事業の早期再生につなげました。

社長さんからは、「工場は全壊したけれど、これで事業再建に向けて頑張ることができる」と本当に力強い言葉をいただきました。

私たち仙台銀行の応援によって、お取引先が再び元気を取り戻していく。これこそが私の大きな支えです。

## 震災復興情報や 復興ローンを取引先へ タイムリーに提供

地元企業応援部企画室  
千葉 圭



震災発生以降、行政機関やコンサルタント等から日々多くの震災関連情報が発信されています。私の役割は、この多岐にわたる情報を収集・整理し、被災取引先が復興支援制度をスムーズに活用できるように提供することです。何よりもスピードを重視しています。

また、営業現場から寄せられる復興資金ニーズをキャッチし、復興専用ローンの開発も担当しています。これまで個人事業者向けの「ビジネスローン クイック300」、復興資金需要にも対応する「みやぎ応援ファンド」などを企画・開発しました。

企画室のコンサルティング力とネットワークを駆使し、これからも被災取引先の要望にタイムリーに対応できるよう頑張ります。

# 私たちの思いと力を、地元企業の復興のために

## 震災直後から被災取引先へ訪問 深い信頼を得て 震災融資に対応

東部工場団地支店  
浅野 昌仁



当支店の営業エリアには、津波で地区一帯が壊滅的な被害を受けた仙台市沿岸部(蒲生地区、荒浜地区)があります。

ライフラインが完全に断たれ、ガソリンも不足するなか、私たちは震災直後から、お客さまの安否や被害状況等を確認するため、泥まみれの営業車や自転車を毎日懸命に走らせて訪問活動を行いました。

また、震災対応の制度融資や復興支援策の情報をいち早く提供することで、復興に向けたお取引先の意欲を喚起し、職員全員で力を合わせて、震災融資に迅速に取り組みました。

震災後の大混乱の中、真っ先にお取引先へ訪問したことは、今まで以上に深い当行への信頼に結びついたものと私は確信しています。

## 震災後の気仙沼を駆け回り 住宅ローン利用者を 懸命に支援

気仙沼支店  
村上 和貴



水産業が盛んな気仙沼市は、地震と津波、火災で多数の建物や工場等が全壊・倒壊しました。震災から10カ月が経過し、震災後のがれき撤去作業等も進み、水産加工業も徐々に営業再開するなど、ようやく復旧・復興に向けて動きはじめました。

私は住宅ローン担当者として、震災直後から住宅ローンご利用者の安否確認に被災した気仙沼市内を駆け回りました。当支店も津波で全壊して机やパソコンもない厳しい環境でしたが、一人ひとりに連絡をとり、返済一時停止や条件変更にも懸命に取り組みました。

お客さまの「仙台銀行も被災して大変だろうけど、気仙沼の復興のため頑張る」との激励の言葉を胸にしっかり刻み、一日も早い気仙沼の復興に向けてこの力を一生懸命注いでいきます。